

2022年(令和4年)

赤目まちづくり委員会・市民センター



12月号

赤目まちづくり通信

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター) 〒518-0465名張市赤目町丈六238-1

E-mail: akame-ko@emachi-nabari.jp

TEL&FAX: 63-0329

今年1年を振り返って

赤目まちづくり委員会 会長 藤村純子
月日のたつのは早く、2022年も年の瀬を迎える時期となりました。

日頃は地域の皆様方には、赤目まちづくり委員会ならびに赤目市民センターの諸活動に対しご理解とご協力を頂いております事、お礼申し上げます。

今年もコロナが終息することなく感染対策をしながらの毎日となりました。赤目まちづくり委員会でも3年ぶりに出来ると計画して参りました「夏まつり」が延期に、また、小学生が楽しみにしていた日帰りキャンプは中止となり、日常生活から楽しいことが消えてしまいそうなお気持ちがありました。しかし夏まつりが「秋まつり」として開催することになり、地域活動部会と青少年育成部会が共に行うことで計画され、去る11月20日(日)に盛大に開催することが出来ました。

大会議室で行われた開会式は、小学生の司会により始まり、多くの来賓の方にも出席を頂きました。

外は小雨模様でしたが、キッチンカーや出店で賑わいを見せ、室内では子ども達がゲームを楽しみ、大会議室の竹あかりをバックに尺八の演奏等が行われました。駐車場では、丈六・檀・一ノ井の獅子舞の披露があり多くの人に楽しんでいただきました。

この「秋まつり」は、多くの皆様の協力があった出来事、そして多くの方々に参加いただきました事に感謝いたしております。ありがとうございました。

令和4年度の赤目まちづくり委員会の事業は、令和5年3月まで続いていきます。計画をしている事業もありますので、今後とも皆様の何卒一層のご協力とご参加をお願い申し上げ、年末のあいさつとさせていただきます。

館外学習「近江商人和永源寺」実施

11月29日(火)今年初めての館外学習・市民大学講座「近江商人和永源寺」を実施しました。

天秤棒1本から財を築いたと云われる「近江商人博物館」・「藤井彦四郎邸」ともみじの名所「永源寺」を訪問。

ボランティアガイドさんの説明で、質素倹約、「三方よし」の教えで有名な近江商人の博物館・屋敷を見学しました。

お昼は、日本料理に舌鼓を打ち、その後もみじの寺「永源寺」の紅葉を楽しみました。もみじ・カエデで真赤に色付いた境内は、一見の価値有り。

「小雨ながら傘も差さずに天気にも恵まれ、勉強できて・感動の一日でした。」と参加者の声。



体操サークルの参加者募集中!!

健康づくりマシマロクラブでは、毎週木曜日10時から健康増進と楽しいふれ合いの体操をしています。体験・自由見学が出来ますので、ぜひお越しください。電話 61-0560 永谷

第1回赤目秋まつり開催

夏まつりの延期に伴い11月20日(日)午前11時より、第1回の「赤目秋まつり」を市民センターで開催しました。

曇り空の中、赤目市民センター駐車場で赤目地域のお店がマルシェ(フリマ・市場)を11時にオープン。開店と同時に多くのお客さんが、クレープ・ラーメン・タコ焼き・焼きそば・フランクフルト・焼き芋等を買って求めていました。

開会式を13時より大会議室で、多くの来賓を迎え開催。その後、サークルさんによる民謡・詩吟・尺八の披露。

子供からお年寄りまでが集える地域の交流の集いとして、研修室で赤目総合スポーツが子供たち対象にゲームを。

小雨の中14時から、地域の伝統文化にふれあい・幅広い年齢の地域交流の場として、駐車場で地元の獅子神楽保存会3団体(一ノ井・檀・丈六区)が獅子舞を演舞。

当日400名余りの参加を頂き、大過なく無事に開催され、ご支援・ご協力を頂きました皆様に心より感謝申し上げます。



市総合防災訓練実施

南海トラフを震源とする巨大地震が発生、「避難指示」が発令されと想定して、11/19(土)9時より防災・避難訓練を実施。

9時に各区単位で一次避難所へ集合、全区で1,130名避難参加。二次避難所(錦生赤目小学校)で、検温・名簿作成後、小・中学生を交え約190名が避難訓練の実施。錦生赤目小学校体育館で、濱地隊長(防犯・防災部部長)より訓練要領の説明の後、三角巾の折り方、担架の作り方や搬送方法等を教わる。



コピーA4(白黒)5円、(カラー)10円。詳細は、市民センターまで。

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)

特大45リットル10枚480円・大30リットル10枚300円・中20リットル10枚180円・小10リットル10枚80円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり30枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター

ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。

子供も大人も、参加自由

赤目町の皆様へ

2022年12月

赤目まちづくり委員会 青少年育成部

子どもたこあげ大会

昨年に引き続き第3回「たこあげ大会」を青少年育成部会で開催致します。
和風づくりで作った風・持参の風を大空高く揚げましょう。新しい年の初めに、
元気な子供達と共に楽しい時間を過ごしましょう。



大人も子供もOKです。

「みんな待ってるよ、
集まってね！」



- ・開催日 令和5年1月8日(日) 9時より
- ・場所 みんなのゆめひろば(赤目町柏原186)集合
- ・内容 自作の風等を持参頂いて結構です。雨天の場合は、中止します。
- ・受付開始日 準備等のため12月23日(金)までに、下記申込書をご記入のうえ、赤目市民センターにお申し込み下さい。

赤目市民センター「子供風揚げ大会」に参加を申し込みます。

ふりがな

名前／ (年齢 歳) 男 ・ 女

住所／ 電話番号／

12月5日～1月1日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
12/5	6	7	8	9	10	11
12	13 	14 ふれあいサロン	15 サンサンカレー	16	17	18
19	20	21 忍たま広場	22	23	24	25
26	27	28 ふれあいサロン 中止	29 赤目歳末警戒	30	31	1/1 元旦

<注意> 12月28日(水)に予定していました「ふれあいサロン」は、
年末につき中止いたします。

1・2月の行事予定

- ★1/8(日)たこあげ大会
- ★1/11(水)ふれあいサロン
- ★1/13(金)～1/23(月)赤目中学校作品展
- ★1/22(日)人権学習会
- ★1/25(水)忍たま広場・ふれあいサロン
- ★2/8(水)ふれあいサロン
- ★2/10(金)組紐づくり
- ★2/15(水)ELP健康教室
- ★2/16(木)サンサンカレー
- ★2/22(水)忍たま広場・ふれあいサロン
- ★2/26(日)ふるさとウォーク in あかめ



※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。
しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合が有りますので、ご注意お願い致します。

Vol.35 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品を募集しています。)

「赤目のむかし話 Part.5」

第五作は、赤目の昔話が全国ネットのテレビで放映されたお話を。

風呂に入るお地蔵さん(丈六区)

昔、赤目の丈六の道ばたに、お地蔵さんがひとつあったそう。ある夜、村人がお地蔵さんの前を通りかかったら、どういうわけか、お地蔵さんがあらんようになってしまった。「ありゃあ、おかしいぞ。確かにここにあったんじゃないか。不思議なことじゃのう。」

あわててあたりを見回したが、どこにも見当たらんかった。村人は、これはえらいことやとあわてて隣の家へ駆け込んで「おい、えらいこっちゃ、地蔵さまがあらんようになってしまった。」「そんなばかなことがあるもんか。石で出来てる地蔵さまがひとり歩いてどこかへ行ったとでも、いうんか。ワッハッハ。笑わずでないよ。」隣りの人は最初相手にしなかったんやが、疑いながらも念のため一緒に道に出て見ると、いなかったはずのお地蔵さんがちゃーんとおるではないか。「なんじゃあ、いるやないか。お前さん。どうかしとるよ。」「いやあ、さっきは絶対いなかったんじゃよ。ほんまに不思議なことやのう。」「お前さん、キツネに化かされたんじゃないのかい。」「いや、絶対そんなことはねえよ…。わしが見た時はなかったんじゃ…。」二人はキツネにつままれたような思いで帰って行ったのじゃった。そんなことがあったとき、近くのお茶屋さんの家では、夜になると決って、「こんばんは。すんまへんけどちょっと風呂に入らせてもらえまへんやろか。」知らない人が訪ねて来るという不思議な事が起こってあつての。このお茶屋の家というのはそりゃあもうたいそう気のいい人たち。お風呂をもらいにくる人に、「どちらさんが存じませんが、どうぞ風呂に入って

だあこ。」気持ちよくすすめとったのじゃ。それからというものだんだんとこの二つの不思議な話が、村中に広まっていったそう。(中略)

石で出来たお地蔵さんの足が、手が、見る見るうちに動き、だんだんその動きも大きくなっていったそう。そしてとうとうゆっくり、ゆっくりと歩き始めたんじゃ。歩いているうちに、少しずつ、少しずつ、人間の姿に変わっていくではないか。これを見ていた村人はただ、ただビックリ。驚きながらもお地蔵さんのあとをつけて行った。しばらくつけると、お地蔵さんはいつものお茶屋さんの前で立ち止まり戸をトントン。「こんばんは。すんまへんけど、お風呂に入らせてもらえまへんやろか。」声をかけると、すぐにお茶屋さんへ入って行ってしまった。翌朝、うわさはたちまち広がり、お地蔵さんが人間に化けてお茶屋さんの家へお風呂をもらいに行くということが、知れわたった。ひとつこの眼で見たいものだとかくる晩、お地蔵さんの前はいっぱいの人だかり。するとどうしたことが、動く気配すら見せん。その夜からお茶屋さんに来なくなってしまうたそう。

それからしばらくたって、石の地蔵とは知らずお風呂を使わせてあげていたお茶屋さんは、みるみる大金持ちになり、家族みんなが長生きしたそう。嫁さんも来て幸せに暮らしたとかで、村人たちは、そのお地蔵さんを大事に大事におまつりし、「福寿延命縁結地蔵」いうて、今もお参りしていますとさ。〈話・棕本孝さん 明治41(1908)年生まれ・青山守さん 大正4(1915)年生まれ〉

